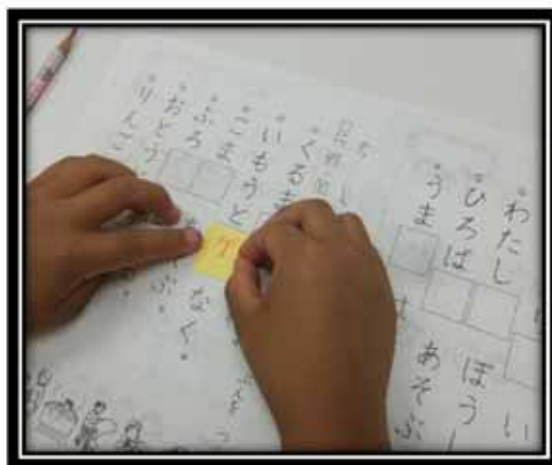


～ 教材等活用事例集 ～



「特別支援学級を支えるために」～教材等活用事例集～

はじめに

本道の小・中学校特別支援学級に在籍する児童生徒は、本年度 12,938 人であり、10 年前の約 2 倍となりました。

このような状況の中、各小・中学校においては、個々の児童生徒に最も適した教育を提供できるよう、子ども一人一人の障がいの状態や発達の段階に応じ、創意工夫を凝らした指導や支援を行っているところですが、特別支援学級を担当する教員から、「子どもに合う適当な教材がない」、「どのような教材が子どもに適しているか分かりづらい」などの声を聞くことがあります。

折しも、昨年告示された新学習指導要領では、障がいのある児童生徒の指導に当たり、個々の子どもによって「見えにくさ」「聞こえにくさ」「道具の操作」「移動上の制約」「健康面や安全面での制約」「発音のしにくさ」「心理的な不安定さ」「人間関係形成の困難さ」「読み書きや計算の困難さ」「注意の集中を持続することの苦手さ」など、学習活動を行う場合に生じる困難さが一人一人異なることに留意し、個々の児童生徒に応じた指導内容や指導方法の工夫について、教科ごとに例示されました。

道教委では、これまで、特別支援学級を担当する教員の指導や支援の充実に資するよう、「特別支援学級リーダー教員研究協議会」等の成果を基に、『特別支援学級を担当する教員のための 4 ステップガイドブック』や『特別支援学級を支えるために～特別支援学級に関する Q & A [実践事例編] ～』等を作成・発行してきたところですが、今回、前述した特別支援学級担当教員の声や、新学習指導要領の内容を踏まえ、教材等を活用した事例を記載した資料『「特別支援学級を支えるために」～教材等活用事例集～』を作成することとしました。

各小・中学校においては、是非、この資料を活用していただき、すべての授業の質の向上に努めるとともに、適切な教育課程の編成や、児童生徒一人一人の障がいの状況等に応じた指導や支援の一層の充実に図られるよう、お願いします。

平成30年 3 月

北海道教育庁特別支援教育課長

山 本 純 史

～ 目 次 ～

はじめに

1 各教科における取組例

-障がいのある児童生徒に配慮した教材を取り入れた取組-	1
登場人物の気持ちの変化を捉えやすくする取組	2
中心となる語や文を明確化して内容理解を促す取組	3
わり算の意味を分かりやすく伝える取組	4
I C T 機器を効果的に活用した取組	5
わり算の手順の理解を促す取組	6
位取りの理解を促す取組	7
楽譜を読みやすくする教材を用いた取組	8
 -教科学習等において自立活動の指導を取り入れた取組-	 9
小筆でバランスのよい書字を促す取組	10
叙述と言葉の意味を関連付ける取組	11
漢字を書くことへの意欲を高める取組	12
同分母の加法計算の理解を促す取組	13
苦手な指使いを補う教材を用いた取組	14
活動への参加意欲を高める教材を用いた取組	15
 2 各教科を知的障がいの各教科に替えた取組例	 16
文字を書くことへの興味を高める取組	17
登場人物になりきった音読によりイメージを豊かにする取組	18
字形を整える取組	19
助詞の使い方を楽しみながら学ぶ取組	20

因果関係の理解を促す取組	21
気持ちを表す表現に親しむ取組	22
数の概念形成を図る取組	23
繰り上がりのある足し算の理解を視覚的に促す取組	24
活動と関連付けながら測定の理解を促す取組	25
時間を自らの行動と関連付ける取組	26
数や計算に親しみながら学習する取組	27
三角形の性質の理解を促す取組	28
行動の手順を分かりやすく伝える取組	29
数の系列の理解を促す取組	30
日本語と英語の表現を結び付ける取組	31
3 自立活動の指導における取組例	32
整理整頓の仕方の理解を促す取組	33
活動の流れを分かりやすく伝える取組	34
読書への意欲を高める取組	35
身辺自立を促す取組	36

**平成 29 年度特別支援教育総合推進事業「特別支援学級担当教員サポート体制事業」
特別支援学級リーダー教員研究協議会参加者**

本指導資料は、特別支援学級リーダー教員研究協議会に参加した教員の実践に加え、小学校学習指導要領解説（平成29年6月）、中学校学習指導要領解説（平成29年7月）及び特別支援学校教育要領（平成29年4月）を参考に作成しています。

本資料では、道教委作成の他の資料と同様に、国の通知や法令等を引用する際は「障害」と表記し、それ以外は「北海道障がい者条例」の表記方法に準じて、「障がい」と表記しています。

各教科における取組例

-障がいのある児童生徒に配慮した教材を取り入れた取組-

新学習指導要領には、障がいのある児童生徒などの指導に当たり、個々の児童生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定さ、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することの苦手さなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について、教科ごとに例示されています。

学校においては、こうした点を参考に、指導上の留意点等について明記した個別の指導計画に必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことが必要です。

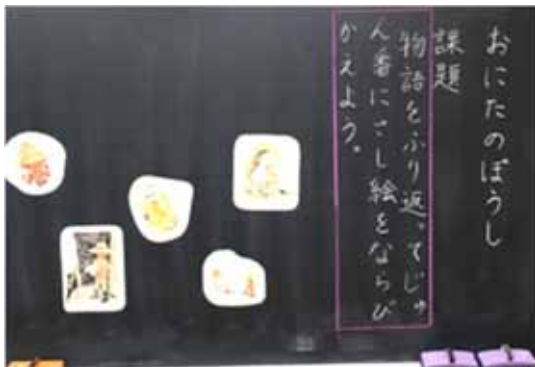
登場人物の気持ちの変化を捉えやすくする取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「物語文」
小学校第3学年及び第4学年（小学校学習指導要領国語科の目標から）
(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

【学習のねらい】

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に読み取ることができる。



拡大し並べ替えやすくした挿絵

教科書と同じ挿絵を拡大し、段落ごとの登場人物の気持ちの変化を考えながら、並び替え、それぞれの場面における登場人物の気持ちについて言語化する活動を設定することにより、登場人物の気持ちの変化について理解を促すことができるよう配慮しています。

【成果】

教科書と同じ挿絵や本文の叙述を手掛かりとして、言語化した登場人物の気持ち等を教師と確認し、場面や場面の移り変わりに着目しながら、登場人物の気持ちの変化を捉えることができるようになってきた。

学習指導要領等を踏まえた工夫

国語科において、自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりすることが困難な場合には、児童の日常的な生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりが分かる文章中のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの工夫が考えられます。

本取組では、それぞれの場面において拡大し並べ替えやすくした挿絵を用い、伝え合うことによって、登場人物の気持ち、性格、情景を理解できるよう配慮しました。

中心となる語や文を明確化して内容理解を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「説明文」

小学校第 3 学年及び第 4 学年（小学校学習指導要領国語科の目標から）

(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

【学習のねらい】

目的に応じて、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係や事実と意見の関係を考えながら読むことができる。

動いて、考えて、また動く

高野 進

児童が文章を読むことに集中し、段落を意識しながら重要な文章に着目できるよう本文を段落ごとに色分けするなどの配慮をしています。

このプリントを作成するに当たっては、文章の行間を広くして、児童が気付いたことを書き込めるように工夫しています。

段落ごとに色分けし、行間にメモできるようにしたプリント

【成果】

「事実が筆者の意見なのかを考えながら一文ずつ読んでいく」という課題に対して、児童が考えながら読み進める中で、気付いたことを行間にメモしていくことにより、段落の中で中心文が要旨につながることに気付くことができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫

国語科において、文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、現在の読んでいる箇所が分かるように、本文を指などで押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具(スリット等)を活用することなどの工夫が考えられます。

本取組では、教科書の行間を広くし、メモできるようにするとともに、説明文を段落ごとに色分けし、児童が段落を意識できるよう配慮しました。

わり算の意味を分かりやすく伝える取組

【授業の概要】

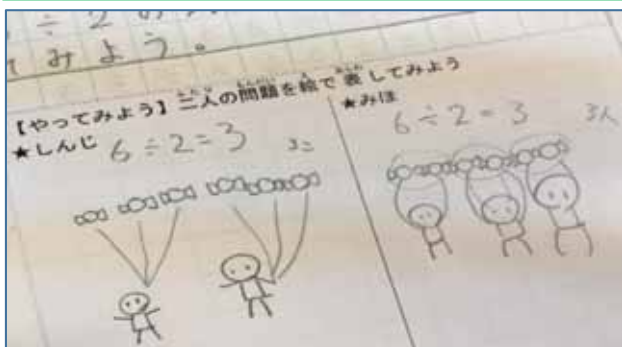
- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「わり算の意味」

小学校第3学年（小学校学習指導要領算数科の目標から）

- (1) 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の内容、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

図や線を用いて、除法の意味や「1つ分の大きさ」を求める場合と「幾つ分か」を求める場合との違いを理解する。



イラストを用いたノートの工夫

全体の個数から1人当たりの個数を求める場合と何人分かを求める場合について、それぞれをイラストで表すことにより、数式の意味の違いに気付くことができるよう配慮しています。

【成果】

イラストを用いることで数式が表す意味の違いをイメージし、全体の個数から「1つ分の大きさ」を求める場合や「幾つ分か」を求める場合の違いを理解することができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫

算数科において「商」「等しい」など、児童が日常生活において使用する機会が少なく、抽象度の高い言葉の理解が困難な場合には、児童が具体的にイメージをもつことができるよう、児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げたり、既習の言葉や分かる言葉に置き換えたりするなどの工夫が考えられます。

本取組では、文章に書かれていることをイラストで示すことにより、「1つ分の大きさ」や「幾つ分か」など数式の意味の違いを視覚的に分かりやすく理解できるよう配慮しました。

ICT機器を効果的に活用した取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「重さの単位と測定（第3学年）」

小学校第3学年（小学校学習指導要領算数科の目標から）

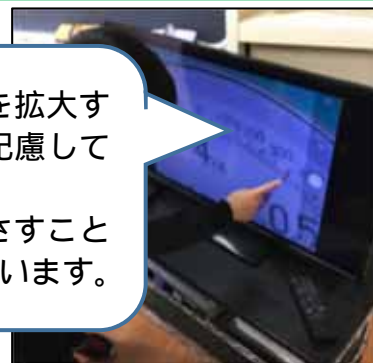
- (1) 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の内容、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

重さの単位と測定方法について理解し、単位を用いながら、身の回りの具体物の重さを測定することができる。

ICT機器を効果的に活用し、目盛りを拡大することで、目盛りが読みやすくなるよう配慮しています。

本取組では、児童が実際に目盛りを指さすことで、確実に重さを測定できるよう配慮しています。



目盛りを指さし確認する様子

【成果】

ICT機器を活用し、はかりの目盛り部分を拡大して表示することにより、適切に重さを測定できるようになった。また、異なる目盛りの計器も使用してみようという意欲にもつながった。

学習指導要領等を踏まえた工夫

社会科において、地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をすることが示されており、算数科におけるはかりの計測などの場面においても同様の配慮が効果的である場合があります。

本取組では、算数科における見えにくさや道具の操作の困難さを軽減するため、社会科における配慮例を参考に、ICT機器を活用し、目盛りを拡大することにより読みやすくし、重さを測定しやすくなるよう配慮しました。

わり算の手順の理解を促す取組

【授業の概要】

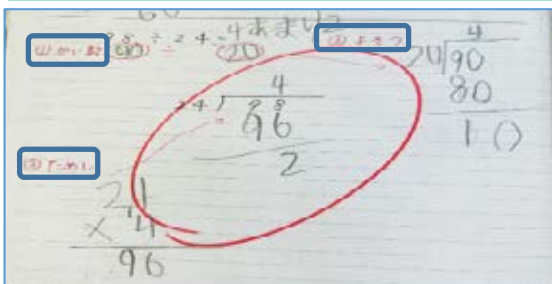
- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「わり算の筆算」

小学校第4学年（小学校学習指導要領算数科の目標から）

- (1) 小数及び分数の意味と表し方、四則の関係、平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解するとともに、整数、小数及び分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

除数が1位数や2位数に対し被除数が2位数や3位数である除法の計算の仕方を理解し、除法で正しく計算することができる。



段階的に計算を行うためのノートの工夫

「がい数」「よそう」「ためし」の3種類の計算を段階的に行うよう促すことで、商の目安や筆算による計算の順番を目で確認しながら、本来の計算につなげていけるよう配慮しています。

【成果】

ノートの使い方を工夫し、段階的に指導を行ったことにより、計算の仕方や思考が整理され、除数が2位数で被除数が2位数の除法の計算ができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫

算数科において、文章を読み取り、数量の関係を式で表すことが難しい場合には、児童が数量の関係をイメージできるように、児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げ、場面を具体的に用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるよう文章を一部分ごとに示したり、図式化したりするなどの例が示されています。

本取組では、情報の計算の仕方を順序立てて考えやすくするために、計算を3つの段階に分け、商の目安や筆算による計算の順番を視覚的に確認できるよう配慮しました。

位取りの理解を促す取組

【授業の概要】

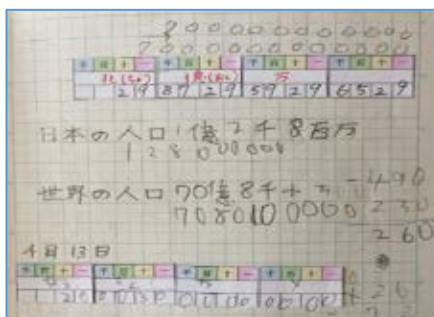
- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「大きな数」

小学校第4学年（小学校学習指導要領算数科の目標から）

- (2) 数とその表現や数量の關係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの關係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の關係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。

【学習のねらい】

大きな数を十進法位取り記数法により表すことができる。



位のまとまりごとに色分けしたノート

文字のみの情報では、理解することが難しいため、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、「一」「十」「百」「千」の位ごとに色分けし、4つの色が揃うと「万」「億」「兆」の新しい単位に変わることを児童が気付けるよう工夫しています。

【成果】

位のまとまりごとに色分けすることにより、各位のまとまりを色でイメージしながら、十進法の考えを理解し、十進法位取り記数法により、億や兆など大きな数の単位について理解することができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫

算数科において、文章を読み取り、数量の關係を式で表すことが難しい場合には、児童が数量の關係をイメージできるように、児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げ、具体物を用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるよう文章を一部分ごとに示したり、図式化するなどの工夫が考えられます。

本取組では、大きな数を既習事項と関連付けて捉えることができるよう、4桁ごとに区切ったり、色分けしたりして、位取りや数量關係をイメージしやすいよう配慮しました。

楽譜を読みやすくする教材を用いた取組

【授業の概要】

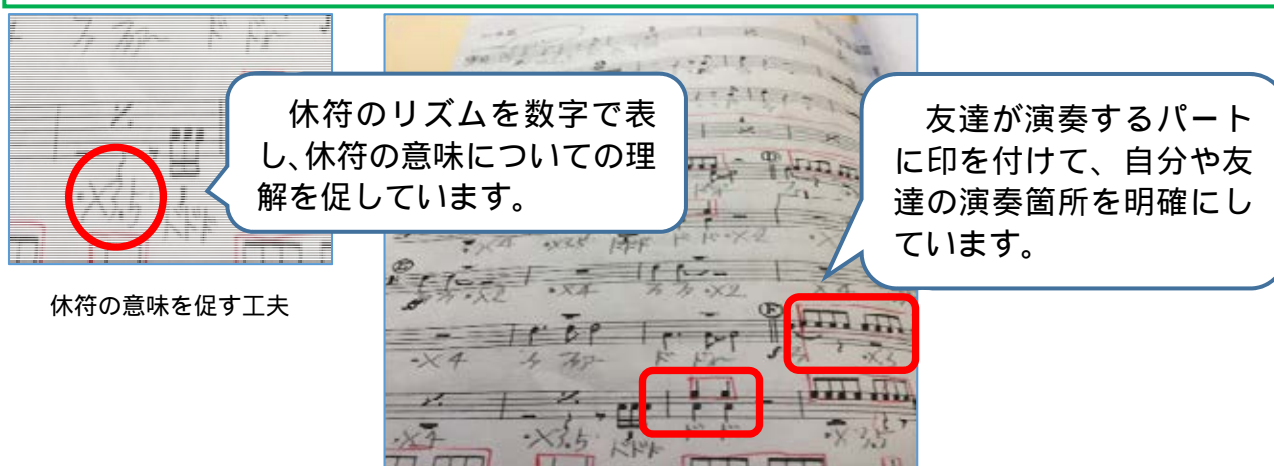
- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第 6 学年
- 指導場面：音楽科
- 学習内容：器楽「リコーダー・アンサンブル」

小学校第 5 学年及び第 6 学年（小学校学習指導要領音楽科の目標から）

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

八長調の楽譜を見て、友達と音を合わせてリコーダーを演奏することができる。



休符の意味を促す工夫

パート分担を明確にする工夫

【成果】

友達が演奏するパートに印を付けたことにより、これまで、友達と音を合わせようと意識することが難しかった児童も、友達の演奏や全体の響きに注意して演奏することができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫

音楽科において、多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、自分がどこに注目したらよいのか混乱しやすい場合には、拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの工夫が考えられます。

本取組では、楽譜に印を付けたり、色分けしたりすることで自分や友達の演奏箇所を分かりやすく示しており、情報の整理・統合が苦手な児童にとっても、友達と合奏する楽しさが味わうことができるよう配慮しました。

各教科における取組

- 教科学習等において自立活動の指導を取り入れた取組 -

新学習指導要領には、特別支援学級において実施する特別の教育課程の編成に係る基本的な考え方について示されており、児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識及び技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことをねらいとした、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れることを規定しています。

学校における自立活動の指導については、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとしてされています。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に指導するよう配慮することとされています。

小筆でバランスのよい書字を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：国語科、自立活動
- 学習内容：「書写（第3学年）」
自立活動「5 身体の動き」
(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。

【学習のねらい】

書字や描画などにおいて、学習のために必要な基本動作を身に付けることができる。



短冊状の手本は、墨や水がかかっても、繰り返し使用できるようラミネートを掛けています。

手本を見ながら書字に取り組む様子

【成果】

短冊形の手本をなぞって学年と名前を書く活動を十分に行ってから、書字したことにより、文字のバランスを意識して書くことができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍する児童の中には、鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出てしまうこと等、手や指先を用いる細かな動きのコントロールに苦手さがあることがあります。さらに、上手に取り組むことができないことにより焦りや不安が生じて、余計に書字が乱れてしまうことがあります。

このような場合、本人の使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付き定規等、本人の使いやすい文具を用いることにより、安心して取り組めるよう、あらかじめ配慮した上で指導することが大切です。

本取組では、手本を下に敷いて小筆でなぞったり、手本を横に置いて視写したりすることで、手指の巧緻性の向上を図ることができるよう配慮しました。

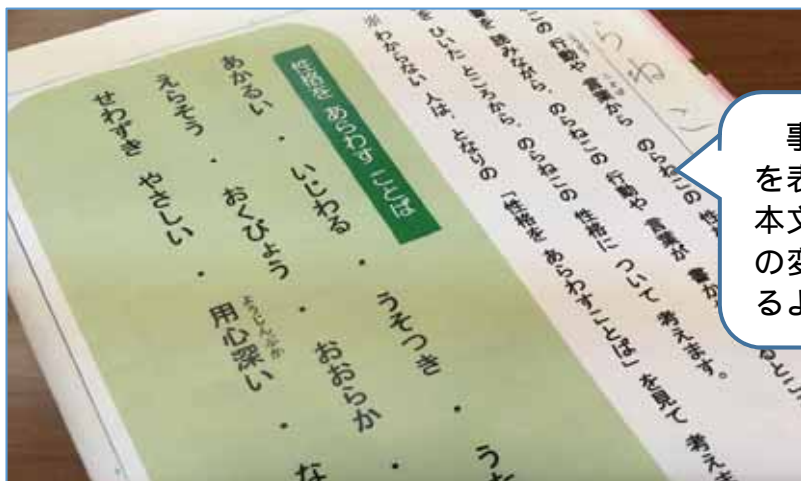
叙述と言葉の意味を関連付ける取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第5学年
- 指導場面：国語科、自立活動
- 学習内容：「性格を表す言葉（第3学年）」
自立活動「3 人間関係の形成」
(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

【学習のねらい】

「気持ちや性格を表す言葉」と関連付けながら、叙述から登場人物の気持ちの変化や性格を捉えることができる。



事前に学習した「気持ちや性格を表す言葉」を確認することで、本文の叙述から登場人物の気持ちの変化や性格を読み取りやすくなるよう配慮しています。

「性格をあらわすことば」の提示

【成果】

事前に学習した「性格をあらわすことば」を提示し、登場人物の性格に近い言葉を考える活動を設定したことにより、言葉の働きと叙述の表現を関連付けながら読むことができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難なことがあります。

このような場合、生活の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切です。

本取組では、性格を表す言葉の意味を学習した上で文を読み、叙述から登場人物の性格をイメージすることができるよう配慮しました。

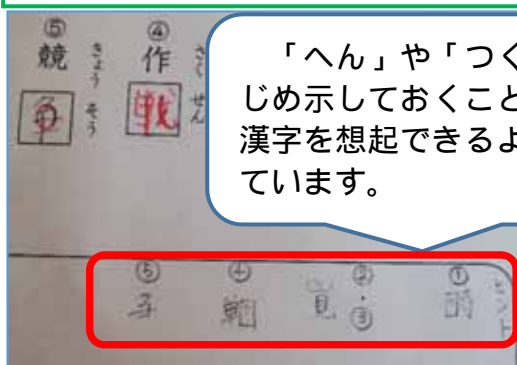
漢字を書くことへの意欲を高める取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第5学年
- 指導場面：国語科、自立活動
- 学習内容：「漢字を書こう（第4学年）」
自立活動「2 心理的な安定」
(1) 情緒の安定を図ること。

【学習のねらい】

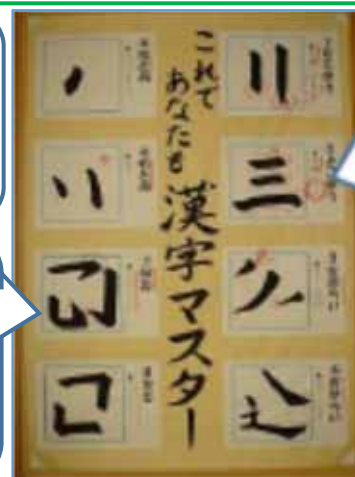
自分の得意な方法で漢字を覚えることにより、自信をもって漢字を書くことができる。



部首をあらかじめ示したプリント

「へん」や「つくり」などの部首をあらかじめ示しておくことにより、部首の意味から漢字を想起できるようにするなどの配慮をしています。

点画等に関する掲示物を用い、漢字の構成要素から書き方を覚えることができるよう配慮しています。



点画を示した掲示物

【成果】

漢字の学習に苦手意識のある児童の指導に対して、「へん」や「つくり」などの既習事項を活用して、漢字のもつ意味を考える活動や、構成要素を覚えたりする活動を取り入れることにより、漢字に対する学習意欲を高めることができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、読み書きの練習を繰り返し行っても、期待したほどの成果が得られない経験を繰り返したことなどから、生活全般において自信を失っていることがあります。

このような場合、本人の得意なことを生かして課題をやり遂げることができるように配慮した活動を行い、成功したことを褒めるなどして自信をもたせたり、自分のよさに気付くことができるように促したりすることが大切です。

本取組では、「へん」や「つくり」への着目や点画などの既習事項を活用し、漢字のもつ意味を考えたり、構成要素を覚えたりするなど、自分が得意な方法で、漢字を覚えることができるよう配慮しました。

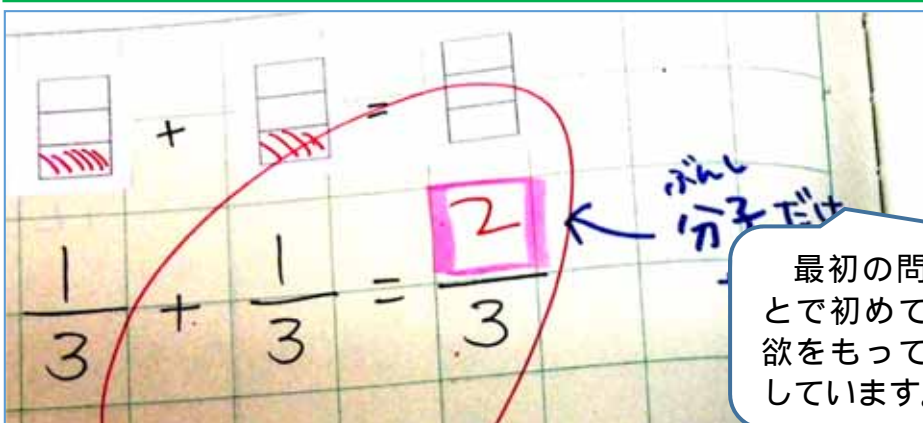
同分母の加法計算の理解を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第5学年
- 指導場面：算数科、自立活動
- 学習内容：「同分母の分数の加法（第4学年）」
自立活動「2 心理的な安定」
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

【学習のねらい】

手掛かりを活用しながら、初めて取り組む学習にも意欲をもって取り組むことができる。



あらかじめヒントを書き加えたノート

【成果】

ノートにあらかじめヒントを加えるなどの工夫をしたことにより、規則性を理解することが難しい児童が、ヒントの図を使って数量をイメージしながら、意欲的に同分母の加法計算の手順を学習することができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、数字の概念や規則性を理解する、計算に時間がかかる、文章題の理解や推論することが苦手で、自分の思うような成果が得られないことから、学習への意欲や関心が低くなっていることがあります。

このような場合、自己の特性に応じた方法で学習に取り組むためには、どのような支援が必要かを理解したり、周囲の励ましや期待、賞賛を受けながら「できる」「できた」という成功体験を重ねたりしていくことが大切です。

本取組では、分数を数字だけではなく図を用いて表したり、計算のヒントを示したりするなど、児童が意欲をもって計算に取り組むことができるよう配慮しました。

苦手な指使いを補う教材を用いた取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：音楽科、自立活動
- 学習内容：「リコーダーで演奏しよう」
自立活動「3 人間関係の形成」
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

【学習のねらい】

細かな手指の動きを必要とする楽器の演奏においても、補助具を用いながら楽曲を演奏し、達成感や成就感を味わうことができる。



リコーダーの孔に医療器用の「うおのめ保護シート」を貼り付けることで、押さえやすくするとともに、シートには色を付けて正しい指使いを意識できるよう工夫しています。

スムーズな指使いを支援するための工夫

【成果】

楽器演奏の学習において、リコーダーの孔を押さえ、スムーズな指使いができるようになり、楽器を演奏することに自信をもつことができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになることがあります。

このような場合、本人が容易にできる活動を設定し、成就感を味わうことができるようにして、徐々に自信を回復しながら、自己の理解を深めていくことが大切です。

本活動では、リコーダーの孔にシートを貼ることにより、孔を押さえやすくし、児童が自信をもって演奏することができるよう配慮しました。

活動への参加意欲を高める教材を用いた取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：図画工作科、自立活動
- 学習内容：「粘土で皿を製作しよう」
自立活動「4 環境の把握」
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

【学習のねらい】

児童の興味・関心の高いデザインを用いた皿の完成品を学習の導入段階で提示することにより、意欲的に皿を作製することができる。



興味・関心の高い虫をモチーフとしたスタンプ



虫型スタンプを用いたデザインの提示

児童の興味・関心の高いデザインのスタンプを用いて、活動への意欲を高めています。

活動の最初に完成品を提示することで見通しをもって授業に参加できるよう工夫しています。

【成果】

児童が興味・関心のあるものを教材に活用するとともに、授業の導入時に完成品を示したことにより、見通しをもって学習に取り組み、学習への意欲が向上した。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難で、活動に参加することが難しいことがあります。

このような場合、活動内容や順序、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、自身が手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるようにすることが大切です。

本取組では、児童の興味・関心の高いに着目するとともに、活動の最初に完成品を提示することにより見通しをもって活動に参加し、意欲的に活動に取り組むことができるよう配慮しました。

各教科を知的障がいのある児童生徒の各教科に替えた取組例

新学習指導要領には、「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」においても育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、各教科等の目標や内容が構造的に示されており、小学校及び中学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性が整理されています。

知的障がいのある児童生徒への指導に当たっては、「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい」など、学習上の特性等を踏まえ、学習環境面を含めた児童生徒一人一人の確実な実態把握に基づき教育的対応を行うことが重要です。

文字を書くことへの興味を高める取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第2学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「文字をなぞろう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科 2 段階

ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。

【学習のねらい】

運筆しやすいマーカーを用いて繰り返し書く活動を取り入れることにより、文字をなぞったり、書いたりすることに対して興味をもつことができる。



ラミネート加工しワークシート

上手に書くことができなくてもすぐに消すことができるよう、ラミネート加工したワークシートを用意し、ホワイトボードマーカーでなぞって練習できるようにしています。

出典：「ちょっと気が利く学習プリントぶりんときっず (<https://print-kids.net/>)」

【成果】

マーカーは、筆圧が弱くても書くことができ、上手に書けない場合もきれいに消すことができることから、楽しみながら繰り返し取り組むことができた。

また、繰り返しの取組により、苦手としている文字を覚えたことで、カタカナや漢字にも興味をもつなど、学習の広がりにつながった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科 2 段階では、児童が興味・関心をもって取り組むことができるよう、いろいろな線の運筆や書く線の始点と終点を分かりやすくして、遊びながら書くことに取り組めるよう配慮し、運筆に親しみ、平仮名の書写に対する興味・関心を育てることも大切です。

また、文字を書くことの指導については、筆記用具、マス目の大きさ、手本との距離等に配慮し、「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」など筆順を言語化するなどして、児童自身が文字の形を確かめながら書写できるような工夫をすることが大切です。

本活動では、ラミネート加工したプリントとホワイトボードマーカーの使用により、簡単に文字を書き直すことができるよう工夫し、児童の書くことへの興味や意欲が高まるよう配慮しました。

登場人物になりきった音読によりイメージを豊かにする取組

【授業の概要】

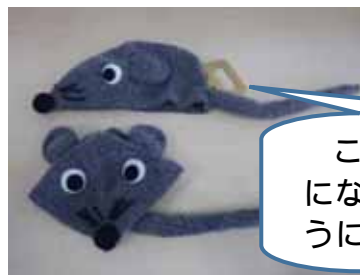
- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第2学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「登場人物になりきろう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科3段階

イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。

【学習のねらい】

登場人物になりきって音読することで、登場人物の動作等をイメージすることができる。



この教材を頭にかぶり、登場人物になりきって、楽しく音読できるようにしています。

登場人物になりきるため頭にかぶる教材

【成果】

登場人物になりきる教材を用いたことにより、意欲的に本文を音読することができた。また、教師も本教材をかぶり、登場人物として音読や場面の様子を演じることで、児童が登場人物の動作等をイメージすることができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科3段階では、身近な人や興味・関心のある物事との関わりを繰り返しながら、言葉を用いて、自分の思いや気持ちを伝えるだけでなく、自分のイメージや思いを具体化したり、相手とそれらを共有したりして、新たな語彙を獲得したり、相手に伝わるように表現を工夫したりすることが大切です。

そのため、国語科の指導においては、経験したことを話したり、共感をもって聞いたり、相手に分かるよう工夫して伝えたりすることを通して、児童が言葉によって考えを深め、相手の話を受け止めていくために必要な国語を身に付けることが大切です。

本取組では、児童が登場人物の視点で表現できるよう、視覚的に分かりやすい教材を作成するとともに、楽しく音読ができるよう配慮しました。

字形を整える取組

【授業の概要】

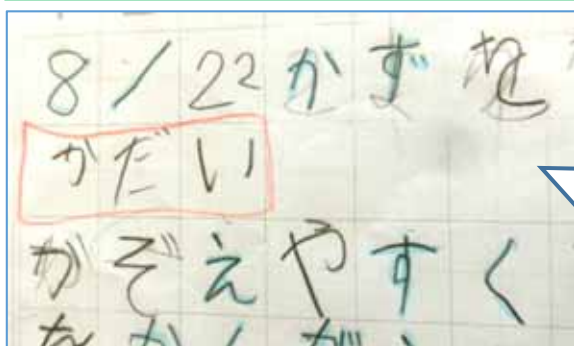
- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「きれいに書こう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科 2 段階

ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。

【学習のねらい】

蛍光ペンの印などを手掛かりとして、始筆の位置や文字の形に気を付け、正しく書くことができるようにする。



字形を整えやすいよう工夫したノート

字形が整うよう、蛍光ペンで始筆の位置に印を付けたり、蛍光ペンで書いた文字の上をなぞったりすることができるように工夫しています。

【成果】

字形が整ってきたことにより、交流学习の場面でも意欲的に授業に参加できるようになった。文字を書きたくても上手に書けないなど、書字に対して自信がなかった児童も、進んで字を書くようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科 2 段階では、児童が興味・関心をもって取り組むことができるよう、いろいろな線の運筆や書く線の始点と終点を分かりやすくして、遊びながら書くことに取り組めるよう配慮し、運筆に親しみ、平仮名の書写に対する興味・関心を育てることも大切です。

また、文字を書くことの指導については、筆記用具、マス目の大きさ、手本との距離等に配慮し、「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」など筆順を言語化するなどして、児童自身が文字の形を確かめながら書写できるような工夫をすることが大切です。

本取組では、蛍光ペンでなぞる線を示したり、始点に印を付けたりするなど、字形を整えやすくするよう配慮しました。

助詞の使い方を楽しみながら学ぶ取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「助詞を学ぼう」
知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科3段階
ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。

【学習のねらい】

色々な助詞を当てはめながら意味を考えることで、助詞の使い方に親しむことができる。



学習に取り組む様子



文字シールを貼ったサイコロ

サイコロに文字を書いたシールを貼り、転がして出た文字を空欄に当てはめ意味を考えることにより、楽しみながら助詞を学ぶことができるようにしています。

空欄に出た文字を当てはめるよう促し、文の意味を考えながら学習できるようにしています。

【成果】

助詞を正しく使うことを目標としている児童が、助詞の使い方に楽しみながら理解することができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科3段階では、日常生活の中で自分の思いや考えを生かすために必要な言葉やその使い方を知り、相手や場面、状況に応じて活用することが大切です。

そのため、指導に当たっては、例えば、具体的な場面や挿絵を用いて、2語から3語で構成する文を題材に、主語や助詞が変わることにより、文が表す意味が変化することを理解することができるよう工夫することが考えられます。

本取組では、助詞が変わることによる意味の違いを考えることを通して、適切な助詞の使い方を身に付けることができるよう配慮しました。

因果関係の理解を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「作文」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科3段階

ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。

【学習のねらい】

絵を手掛かりに、順序や因果関係を意識して文を書くことができる。



取組当初は、1枚のカードを用いて、主語と述語を意識した文を作る練習をしました。その後、4枚のカードを時系列で並べて、「それからどうしたの？」などと手掛かりを与えながら因果関係のあるひとつの話を作ることに取り組んでいます。

因果関係の理解を促す絵カード

出典：「おはなしづくりカード
（「こぐま」幼児教育実践研究所）」

【成果】

作文を書くことが苦手な児童が、絵カードを手掛かりにして、因果関係を意識しながら文をつなげて書くことができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科3段階では、日常生活の中で自分の思いや考えを生かすために必要な言葉やその使い方を知り、相手や場面、状況に応じて活用することが大切です。

そのため、指導に当たっては、例えば、具体的な場面や挿絵を用いて、2語から3語で構成する文を題材に、主語や助詞が変わることにより、文が表す意味が変化することを理解することができるよう工夫することが考えられます。

本取組では、絵カードを活用しながら、文を作る活動を通して、主語と述語のつながりや文章の始め・中・終わり等の構成が意識できるよう配慮しました。

気持ちを表す表現に親しむ取組

【授業の概要】

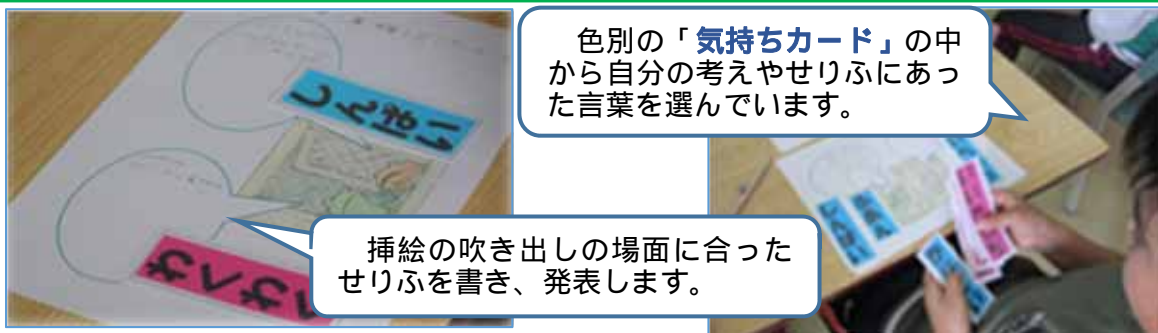
- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第2～6学年
- 指導場面：国語科
- 学習内容：「表現しよう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
国語科3段階

言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

【学習のねらい】

挿絵に注目し、場面に合うせりふについて想像したり、選択肢の中から選んだりすることで、いろいろな表現があることに気付く。



気持ちを表す言葉を示した「気持ちカード」

「気持ちカード」を用いて学習に取り組む様子

【成果】

「気持ちカード」を用いることで、児童が気持ちを表す言葉を手掛かりにしながら、挿絵に合った言葉を吹き出しに記入することができた。

また、友達との交流場面を設定することにより、自分の表現した語句や表現以外の言葉にも親しむことができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

国語科3段階では、身近な人や興味・関心のある物事との関わりを繰り返しながら、言葉を用いて、自分の思いや気持ちを伝えるだけでなく、自分のイメージや思いを具体化したり、相手とそれらを共有したりして、新たな語彙を獲得したり、相手に伝わるように表現を工夫したりすることが大切です。

そのため、国語科の指導においては、経験したことを話したり、共感をもって聞いたり、相手に分かるよう工夫して伝えたりすることを通して、児童が言葉によって考えを深め、相手の話を受け止めていくために必要な国語を身に付けることが大切です。

本取組では、気持ちを表す言葉の理解が不十分な児童が主体的に学ぶことができるようにするため、挿絵に注目させたり、カードを活用したりすることにより、言葉への興味・関心を高め、新しい語句や表現方法を身に付けることができるよう配慮しました。

数の概念形成を図る取組

【授業の概要】

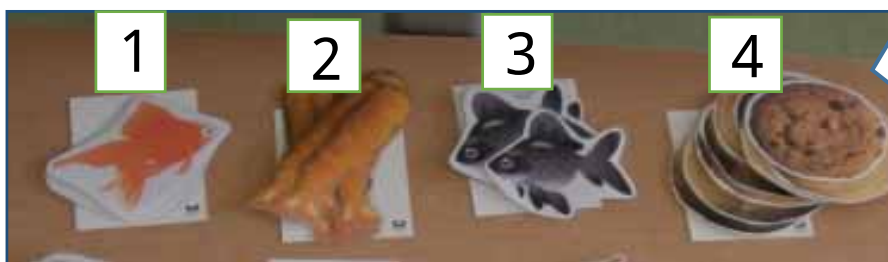
- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第2学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「数を数えよう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
算数科2段階「A 数と計算」

ア 10 までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

数字やドットカードが示す数と同じ枚数のイラストを並べる活動により、数詞と数とを対応することができる。



興味のあるイラストを使って、指定された数だけイラストを重ねる活動に取り組んでいます。

児童の興味に基づいたイラストと数字

【成果】

興味のある絵が描かれたカードを使ってゲーム感覚で楽しく取り組み、10までの数とイラストの枚数とを対応させることができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

算数科2段階では、視覚や触覚等の感覚を働かせながら、10までの範囲の数の、ものとのを一对一に対応させることによって、どちらが多いか、少ないか、同じかを判断して表現する活動から始まり、やがて、数えるものを移動させたり、指差しをしたりしながら、数とものを対応させて個数を正しく数え、対応が完成した最後の数を集合数として表すことができるようにすることが大切です。

そのため、指導に当たっては、具体物を操作する活動を通して、ものの数と数詞と数字とが一致し、学習や生活の中において、数を数えたり、比べたり、表現したりすることに興味をもち、数を使うよさを感じられるよう工夫することが考えられます。

本取組では、興味のある絵カードを操作することにより、数詞と数の対応について、学ぶことができるよう配慮しました。

繰り上がりのある足し算の理解を視覚的に促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「繰り上がりのある足し算」

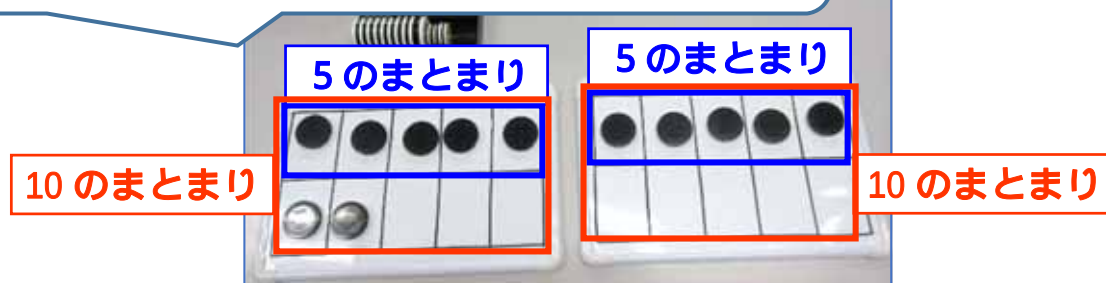
知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
算数科3段階「A 数と計算」

ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

一位数同士の加法や減法について、具体物を使い、自分で操作しながら理解を深める。

繰り上がりのある足し算では、数のまとまりを示した枠の中に、オセ口の石を移動させながら、計算することにより、数のまとまりを意識できるよう工夫しています。



繰り上がりのある足し算を視覚的に捉える教材

【成果】

本教材を活用したことにより、具体物を操作し、5のまとまりや10のまとまりを意識しながら繰り上がりのある足し算ができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

算数科3段階では、2段階で学習した10までのものの数の数え方や比べ方、表し方の内容を踏まえ、徐々に数の範囲を広げていき、数のまとまりに着目することのよさに気付くことができるように促しながら、100までの数の意味や表し方について指導することが重要です。

また、和が20までの数の加法や20までの数の範囲の減法についても取り扱うことが大切です。

本取組では、数量関係をイメージできるよう、加法や減法について、具体物を操作し、数のまとまりを意識しながら、計算の仕方を学ぶことができるよう配慮しました。

活動と関連付けながら測定の理解を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：中学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第1学年
- 指導場面：算数科
- 学習内容：「長さを測ろう」

知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科
数学科1段階「C 測定」

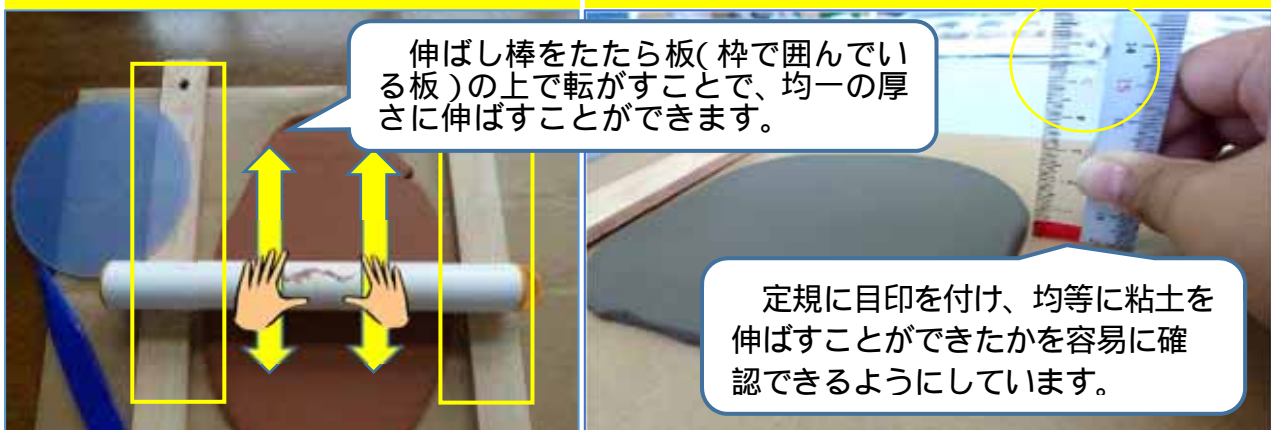
ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

皿を製作する粘土を「たたら板」で伸ばして5mmの厚さにし、定規を用いて、5mmの厚さになっているかを確認することができる。

たたら板の厚さになるよう伸ばす。

定規を使用して長さを測る。



【成果】

長さを繰り返し測定する活動を通して、長さを測定する感覚を身に付けることができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

数学科1段階では、普遍単位を基準に、その幾つ分であるかを測定対象に応じた計器を用いて測定し、量を数値化したり、単位を選んだりすることを指導することが大切です。

そのため、指導に当たっては、普遍単位を基準に数値化する活動から始まり、やがてものさしの目盛りの原点を対象の端に当てながら測ったり、対象に応じた単位を選んだりすることができるよう工夫することが考えられます。

本教材では、定規を用いて測定しやすくするため、粘土の厚さを図る際、定規に5mm分の長さ目印を付けることにより、測定する際の始点となる目盛りの原点を意識しながら測定することができるよう配慮しました。

時間を自らの行動と関連付ける取組

【授業の概要】

- 対 象：中学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第1学年
- 指導場面：数学科
- 学習内容：「時間と時刻の違いを知ろう」

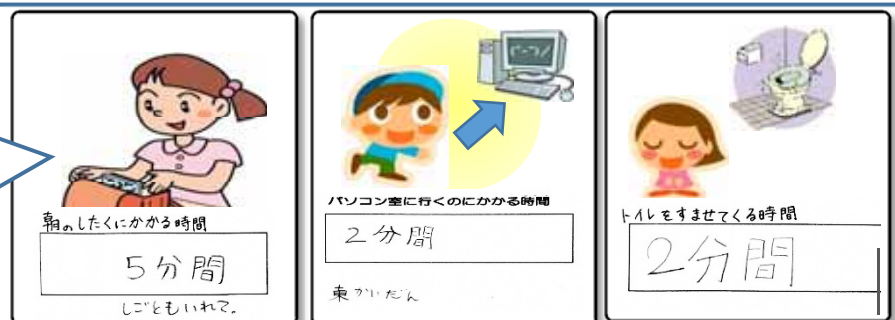
知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科
数学科1段階「C 測定」

ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

タイムカードを作ることによって時間の感覚を身に付けるとともに、生活と時間を結び付けて考えたり、見通しをもって行動したりすることができる。

タイマーや砂時計を使い、様々な活動をした後、要した時間を記入しています。



タイムカードの例

【成果】

自分の活動が実際にどれくらいの時間を要しているかを知ることにより、生活に見通しがもてるようになるとともに、時刻と時間の意味の違いが分かるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

数学科1段階では、朝の会や給食の時間などの身近な生活場面の開始や終了時刻を模型時計で表す活動から始まり、1時間後や前の時刻などを模型時計で表したり、時刻と時刻の間にある時間を、時計の文字盤の目盛りや数直線表示を手掛かりに求めたりすることができるようにすることが重要です。

そのため、指導に当たっては、時間を長さと同じように量として捉えられるよう、絵図などを用いて生活の中で時刻や時間と生活を結び付けて考えたり、表現したりすることができるように工夫することが考えられます。

本取組では、所要時間が書かれた「タイムカード」を作成する活動により、自分の行動に要する時間を予測することができるようにし、日常生活場面と時間を関連付けながら見通しをもって行動できるよう配慮しました。

数や計算に親しみながら学習する取組

【授業の概要】

- 対象：中学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第1学年
- 指導場面：数学科
- 学習内容：「おおきな数」

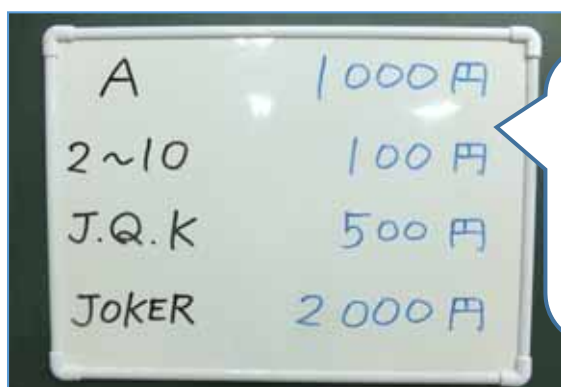
知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科

数学科1段階「A 数と計算」

ア 3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

「100が10個で1,000」など、数の相対的な大きさを捉えながら、計算に親しむことができる。



トランプと金額の関係を示した表示

トランプを2回引いて、A(1,000円)とJ(500円)が出たら1,500円など、大きな数の加法に取り組みました。生徒の興味が引き出せるようトランプを使った活動を用意するなど、楽しみながら計算の学習に取り組めるよう配慮しています。

【成果】

ゲーム感覚で学習に取り組んだことにより、大きな数の計算に抵抗なく取り組むことができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

数学科1段階では、1,000までのものの数を、小学部算数科で学習した方法を活用しながら、十進位取り記数法の素地を養うことが重要です。

指導に当たっては、十、百を単位として数を捉え、例えば、硬貨などを用いながら、800円は「百円硬貨が8枚集まった数」とみたり、「十円硬貨が80枚集まった数」とみたりし、数の相対的な大きさを捉えることによって、理解を深められるよう工夫することが考えられます。

本取組では、トランプゲームと金銭の計算を関連付け、楽しみながら学習し、大きな数を数える際に、数のまとまりに着目できるよう配慮しました。

三角形の性質の理解を促す取組

【授業の概要】

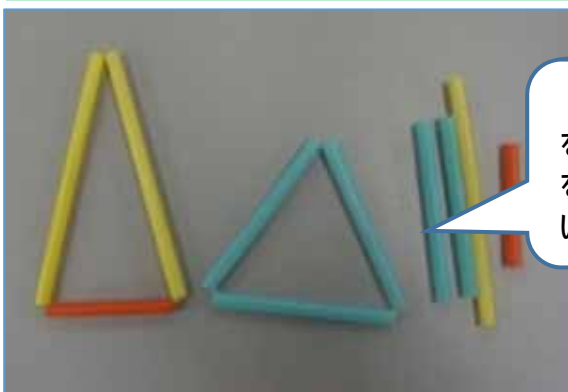
- 対 象：中学校 知的障がい特別支援学級 第1学年
- 指導場面：数学科
- 学習内容：「三角形の性質を知ろう」

知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科
数学科1段階「B 図形」

ア 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

二等辺三角形は2辺の長さが等しいことや正三角形は3辺すべてが等しいことを理解する。



色分けしたストローを使って作成した三角形

【成果】

長さによって色分けしたストローを用いて三角形を作ったことにより、正三角形や二等辺三角形の特徴を理解することができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

数学科1段階では、生活に即した活動を通して、体験的に図形を構成する要素を捉えることができるようにすることが重要です。

そのため、指導に当たっては、これまで三角、四角と捉えていた図形について、3本の直線で囲まれている形を三角形といい、4本の直線で囲まれている図形を四角形ということを確認し、身の回りから、かどの形が直角であるものを見付けたり、紙を折って直角を作ったりするなどの活動を通して、直角の意味を捉えられるように工夫することが考えられます。

本取組では、図形の要素を理解するため、色や長さを工夫したストローを活用することにより、具体物を操作しながら三角形の特徴を学ぶことができるよう配慮しました。

行動の手順を分かりやすく伝える取組

【授業の概要】

- 対 象：小学部 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第1学年、第2学年
- 指導場面：日常生活の指導
- 学習内容：「朝の準備をしよう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
生活科 3 段階

ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

朝の準備の一連の活動を理解し、主体的に取り組もうとする態度を養う。

あさのじゅんび	
すること	チェック
ランドセルをつぐえに おく。	
ランドセルの中のものを つぐえに 入れる。	
ランドセルを	

朝の準備確認表

手順を確認しながら活動することができるよう、写真や絵カードを用いて手順を思い出せるように配慮しています。

【成果】

手順を忘れてしまったり、途中で別の行動をしたりすることの多い児童が、「朝の準備確認表」を用いたことにより、次の行動が明確になり自信をもち、自ら行動することができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

生活科 3 段階では、一連の活動に自分から取り組み、自信につなげていくことにより、生活を豊かにしようとする意欲や態度を高め、日常的に行い習慣化し、自分の家や学校外でもできるようになることを目指していくことが重要です。

そのため、指導に当たっては、靴や衣服などの整理をすることや、かばんや文具などの収納場所や収納方法が分かり、整理整頓ができるよう工夫することが考えられます。

本取組では、朝の準備の手順を視覚的に示すことにより、手順を忘れたり、途中で注意が逸れたりする児童が、主体的に行動することができるよう配慮しました。

数の系列の理解を促す取組

【授業の概要】

- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 第4学年
- 指導場面：生活単元学習
- 学習内容：「カレンダーを使おう」

知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科
算数科3段階「A 数と計算」

ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。

【学習のねらい】

数字を並べてカレンダーを作る活動を通して、数の順序を理解し、数字と一致させることができる。



数字カードを並べて作成したカレンダー

数字カードの裏側にマグネットを着けることで、ホワイトボードに貼ることができるようにしています。

数の系列とは「1・2・3…」というように1から上昇方向に数が並んでいることを指す。

【成果】

日常生活と結び付けながら、数字カードを並べたことにより、数の系列への理解を促すことができた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

算数科3段階では、2段階で学習した10までの数の数え方や大小比較、数の構成的な見方や表し方等の既習事項を基にして、20までの数の数え方や表し方について考え、徐々に数の範囲を広げていきながら、100までの数を正しく数えたり、数えた数を数字を用いて表したりすることができるようにすることが大切です。

本教材では、日常生活で使われるカレンダーを題材として、カードにマグネットを付けるなどの工夫をすることで、繰り返し、数の系列を学習できるよう配慮しました。

日本語と英語の表現を結び付ける取組

【授業の概要】

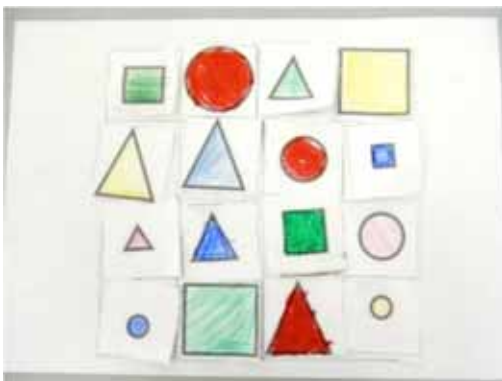
- 対 象：中学校 知的障がい特別支援学級 第2学年
- 指導場面：外国語科
- 学習内容：「単語を覚えよう」

知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科
外国語科

- (1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

【学習のねらい】

大きさや形などを表す英語に興味をもち、その意味を理解することができる。



形や色で構成したビンゴカード

生徒が選択した図形の「大きさ」、「形」、「色」を表す新出英単語を教師が発音しながらビンゴゲームを進めました。

その際、既習の単語を組み合わせられるよう形や色を選択することにより、学習内容の定着を促しています。

【成果】

「big」「square」「red」などの既習の英単語を組合せ、生徒が楽しみながら単語を覚えることにつながった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【知的障がい者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科】

外国語科では、生徒が外国語に興味・関心をもちたり、外国語の音声に慣れ親しんだりするため、体験的な活動が大切です。例えば、生徒の日常生活に関わりのある初歩的な外国語を歌、ゲーム、クイズ、ネイティブ・スピーカーなどとの関わりなどを通して聞いたり見たりする活動を行うなどの工夫や配慮が必要です。

そのため、指導に当たっては、挨拶に関する表現、文字、数字、食べ物やスポーツ、生活用品の名称などについて、外国語を用いた体験的な活動を通して、生徒の興味・関心を高めるよう工夫することが考えられます。

本取組では、形や色を表す単語を英語で表現するゲームを通し、日常生活で使われる、形や色などの単語について、音声と事物が結び付けられるよう配慮しました。

自立活動の指導における取組例

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示された自立活動の内容は、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」及び「コミュニケーション」の6つの区分の下に27項目が設けられており、個々の児童生徒の障がいの状態等の的確な把握に基づき、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な項目を選定した上で、それらを相互に関連付けて学習内容を設定し、取り扱うことから、児童生徒一人一人に応じた個別の指導計画を作成し、指導を展開する必要があります。

整理整頓の仕方の理解を促す取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年
- 指導場面：自立活動
- 学習内容：整理整頓をしよう
自立活動「4 環境の把握」
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

【学習のねらい】

視覚的な手掛かりを活用することで、身の回りを自ら整理整頓しようとすることができる。



整理整頓確認カード

【成果】

見本の写真を掲示したことにより、教師からの言葉掛けがなくても、児童が自ら気付き、丁寧に身の回りの整理整頓を行うことができるようになってきた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、周囲のことに気が散りやすいことから、一つ一つの行動に時間がかかり、整理整頓などの習慣が十分身に付いていないことがあります。

このような場合、個々の児童の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組むことが大切です。また、生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導をすることによって養うことができる場合が多く、日常的に心掛けられるようにすることが大切です。

本取組では、自分で身の回りの整理整頓が行うことができるよう、活動の手順を視覚的に分かりやすく示し、児童が自分で整理整頓の仕方を確認することができるよう配慮しました。

活動の流れを分かりやすく伝える取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 第3学年、第4学年
- 指導場面：自立活動
- 学習内容：「上手な励まし方の練習をしよう」
自立活動「3 人間関係の形成」
(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

【学習のねらい】

場や相手の状況に応じた適切なコミュニケーションがとれるよう、日常の様々な場面で必要なよりよい行動の仕方を知り、日常生活に生かすことができる。



シナリオカード



学習の様子

動機付け
モデリング
好ましい行動の選択
ロールプレイ
別の場面での練習
振り返りの活動
と授業の流れをあらかじめ
決めておき、毎日決まった流
れで取り組んでいます。

【成果】

毎回の授業の展開を一定にしたことにより、これまで見通しがもてなかった児童の不安が軽減され、主体的に活動に参加しようとするようになった。また、シナリオカードを用いて生活に必要な言葉に親しんだことにより、日常生活において適切なコミュニケーションをとることができるようになってきた。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合があります。また、言葉を字義通りに受け止めてしまう場合もあるため、行動や表情に表れている相手の真意を誤って理解することもあります。

このような場合、生活の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情などから、立場や考えを推測するような指導を通して、相手と関わる際の具体的な方法を身に付けることが大切です。

本教材では、一定の流れで継続的に友達を励ます言葉などを学習することにより、好ましいコミュニケーションが身に付けられるよう配慮しました。

読書への意欲を高める取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 知的障がい特別支援学級 全学年
- 指導場面：自立活動
- 学習内容：「読書メモを書こう」
自立活動「2 心理的な安定」
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

【学習のねらい】

自分の「読書の木」に「木の実シール」を貼ることを通して、読書をしたり「読書メモ」を書いたりする活動への意欲の向上を図る。



読書の木



図書室前の廊下

【成果】

「木の実シール」を増やそうと、意欲的に本を読んだり、「読書メモ」を書いたりするようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、読み書きの練習を繰り返し行っても、期待したほどの成果が得られない経験などから、生活全般において自信を失っている場合があります。

このような場合、本人が得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導し、成功したことをほめることで自信をもたせたり、自分のよさに気付くことができるようにしたりすることが大切です。

本取組では、行動と結果の関係を視覚的に分かりやすく提示したことにより、児童が本を読んだことに自信をもったり、達成感を感じたりすることができるよう配慮しました。

身辺自立を促す取組

【指導の概要】

- 対 象：小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級 全学年
- 指導場面：自立活動
- 学習内容：靴をそろえよう
自立活動「3 人間関係の形成」
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

【学習のねらい】

視覚的な手掛かりを活用し、一つ一つの行動に落ち着いて取り組むことができる。



靴のサイズに合わせた枠テープを所定の床の位置に貼ることで、靴をそろえて並べることを意識付けています。

靴を並べるための目印

【成果】

「早く遊びたい」と気持ちが高揚しがちな場面でも、視覚的な手掛かりを活用したことにより、靴をそろえて、落ち着いて入室することができるようになった。

学習指導要領等を踏まえた工夫【自立活動を取り入れた指導】

特別支援学級に在籍している児童の中には、自己の状態の分析や理解が難しいため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりすることがあります。

このような場合、行動やできごとの因果関係を図示して理解させたり、実現可能な目当ての立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学んだりして、自ら適切な行動を選択し調整する力を育てていくことが大切です。

本取組では、靴をそろえることが定着するよう、児童の靴の置き場所を視覚的に分かりやすく示し、児童が落ち着いて行動できるよう配慮しました。

**平成29年度特別支援教育総合推進事業「特別支援学級担当教員サポート体制事業」
特別支援学級リーダー教員研究協議会参加者**

管内	学校名	氏 名
空知	新十津川町立新十津川小学校	植 田 雅 博
石狩	北広島市立東部小学校	吹 浦 美 香
後志	余市町立黒川小学校	谷 崎 美 樹
胆振	室蘭市立地球岬小学校	山 本 優 子
日高	浦河町立堺町小学校	吉 田 麻衣子
渡島	松前町立松城小学校	佐 藤 敦
檜山	今金町立今金小学校	遠 藤 美由樹
上川	上富良野町立上富良野小学校	中 村 恭 子
留萌	苫前町立苫前小学校	工 藤 笑
宗谷	稚内市立稚内東小学校	加 藤 真 理
オホーツク	網走市立網走小学校	大 和 明 子
十勝	帯広市立明星小学校	林 繁 晴
釧路	釧路市立鳥取小学校	畑 嶋 茂 春
根室	根室市立光洋中学校	原 奈穂子

平成29年度特別支援学級担当教員サポート体制事業
北海道教育庁学校教育局特別支援教育課学校教育指導グループ
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館
電 話 011-204-5774
FAX 011-232-1049